

【近畿農政局長賞：地域の平均単収からの増収の部】 (株)森元農園 (滋賀県大津市)

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
北陸193号	約1.1ha	625kg/10a	128kg/10a (497kg/10a) ※作況補正後の地域の平均単収



【経営概況】

- 本人、従業員3名、アルバイト4名、季節雇用3名で経営する専業農家。
- 経営面積は34ha。飼料用米、主食用米、麦、大豆、子実用とうもろこし、ブロッコリーを栽培。

【作付品目】

- ・主食用米:きぬむすめ、コシヒカリ、^{しがはぶたえもち}みずかがみ、キヌヒカリ、滋賀羽二重糯
約19.0ha
- ・麦・大豆・子実用とうもろこし・ブロッコリー
約13.8ha

【取組のきっかけ】

- 近隣の養鶏(採卵)農家とつながりがあり、約20年前から「日本晴」、「吟おうみ」を飼料用米として提供。
- 近隣の生産者が極多収で耐倒伏性をもつ「北陸193号」で高い単収をあげていたことから、令和6年から主食用品種から多収性専用品種の「北陸193号」に転換した。



【取組概要】

- 基肥は田植機による側条施肥で一発肥料を施用。
- 追肥はコスト低減と単収向上を考慮し、尿素を中間追肥と穂肥の2回施用している。また、当該地域は砂地のため、肥料抜けが早いことから、葉色を確認しながら施肥のタイミングを図っている。
- 防除は、田植え前に育苗箱施用を行っているほか、自ら所有しているドローンを活用し省力化に取り組んでいる。
- 農業用機械の動力散布機と刈払機はバッテリー式を導入し、環境負荷低減に取り組んでいる。
- 収穫後は立毛乾燥を行い、養鶏農家へ粃の状態フレコン出荷しており省力化を図っている。
- 養鶏農家と飼料用米生産農家で堆肥利活用組合を結成し、ペレット鶏ふんの開発に取り組んでいる。
- 地域の青年農業者倶楽部に入会し、獣害対策のため狩猟免許の取得に取り組んでいるほか、ブロッコリーの収穫で近隣の社会福祉施設との連携を図るなど農福連携にも取り組むなど地域の模範となっている。